

科目にかかわる情報				
科目の 基本 情報	授業科目 (欧文)	現代哲学 Modern Philosophy		単位 2
	一般・専門の別・ 学習の分野	一般・人文・社会	授業形態・学期	講義・前期
	対象学生	MS－2，EC－2	必修・選択の別	選択
教員に かかわ る情報	担当教員・所属	稲田知己・一般科目（文）		
	研究室等の連絡先	研究室：管理・一般科目棟2階 (内線：8180, E-mail：inada@tsuyama-ct.ac.jp)		
科目の 学習・ 教育内 容にか かわる 情報	基礎となる学問分野	哲学／倫理学		
	専攻科学習目標との 関連	本科目は専攻科学習目標「工学倫理の学習や技術者倫理に関する特別講義を受講するとともに、広く技術者倫理の理解ができる」に相当する科目である。		
	技術者教育 プログラムとの関連	本科目が主体とする学習・教育到達目標は、「(G) 技術者倫理の理解，G－1：倫理的・経済的および安全上の考察に関する理解を深め，技術者として社会に対する責任を自覚し，説明できること」であるが，付随的には「B－1」にも関与する。		
	授業の概要	現代の工学技術者・工学研究者にとって倫理教育は不可欠の教養となっている。今年度の「現代哲学」では，哲学・倫理学の根本問題を取り上げることによって，科学技術文明について考察を深めたい。		
	学習目的	この授業は現代哲学の諸問題を系統的に学習することによって，技術者として社会に対する責任を自覚する能力を身につけることを目標としている。		
	到達目標	1．哲学者の思想に触れ，人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。 2．現代科学の考え方や科学技術の特質，科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。 ◎人間性，教養，モラルなど，社会的・地球的観点から物事を考えることができる。		
履修上の注意		本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1単位あたり授業時間として15単位時間開講するが，これ以外に30単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。		
履修のアドバイス		レポートが必ず課されるので，平素から新聞等を読む習慣をつけて，自分なりの問題関心をもつこと。		
基礎科目		倫理（1年），工業倫理学（5）		
関連科目		工学倫理（専1年）		

授業にかかわる情報				
授業の方法			簡便な哲学の教科書を使用するが、受講生自身と議論することによって授業をすすめていく。課題提出を求めて授業時間外での追加学習を求める。	
	開講週		授業時間内の学習内容〔項目〕 (指示事項)	授業時間外の学習内容〔項目〕 (指示事項)
	前 期	1 週 2 ～ 3 週 4 ～ 5 週 6 週 7 週 8 ～ 9 週 10 週 11～12 週 13～14 週 15 週	●ガイダンス。 ●教科書第 1 章「自由」 ●教科書第 2 章「歴史」 ●教科書第 3 章「個と普遍」 ●教科書第 4 章「科学の勃興」 ●教科書第 5 章「客観性」 ●教科書第 6 章「弁証法」 ●教科書第 7 章「実存」 ●教科書第 8 章「ニヒリズム」 ●復習とまとめ	●報告書作成の指示 ●レポート作成の指示
教科書，教材等			教科書：川原栄峰『哲学入門以前』（南窓社） 参考書：特になし	
成績評価方法			1 回のレポート（50%）。授業内容を確認する報告書（50%）。 再試験は実施しない。	
受講上のアドバイス			平常点・出席点は成績評価で考慮しないが、必ず授業時間数の 2／3 は出席すること。 遅刻については、授業に大幅に遅れてやってきた学生は欠課とするが、何回かの遅刻を 1 欠課とするという措置はとらない。	